

親学講演会開催



平成28年6月19日(日)。広島ビジネス専門学校(広島市)にて、親学講演会を開催。

講師は、明星大学特別教授 高橋史朗氏。テーマは、「親とは何か？親に求められることは何か？」

会場には、広島県内外から約150名の参加者。

高橋史朗先生のお話から、親としてのあり方を学んだ。

■ 講演「親とは何か。親に求められることは何か。」 高橋史朗氏

■ なぜ、親学が必要か。

1 学級崩壊の原因

親子の愛着形成が出来ていないために、対人関係能力が育っていない。学級崩壊の要因に、幼少期の親の関わり方がある。

2 いじめ・発達障害・非行は予防が大切

幼少期における親の言葉かけは、将来を大きく左右する。いじめが広がるのは、人の気持ちが理解できないからである。親子の愛着形成を通して教えていくことが必要。

3 親子の関わりこそ重要

星空を見て「じんましんみたいで気持ち悪い。」という子供がいた。星空を見て「きれいだね。」というような、何気ない会話で親子の関わりをもつことが大切。

4 親子の関わり方に変化

「友達親子」が増えてきた。親子の関わりが馴れ合い(友達関係)のようにになっている。親が子供の壁になり、秩序、ルールを伝えていくことが必要である。

■ 日本を取り戻すために家族が必要

今の日本は、未婚化、晩婚化が進んで

いる。結婚すること、親になることに魅力を感じるようなライフデザインを教えることが必要である。かつて、明治時代の家族心得では、

- ・家庭の教えで芽が出る。
- ・学校の教えで花が咲く。
- ・社会の教えで実がなる。

と教えていた。このような伝統的な考えを、科学的な知見を通して、教えていくことが必要である。

■ 教育の目的は自立

1 自立への道のり

子供が自立していくために、最初に大切なのは愛着である。愛着が他律の土台となり、他律が自律の土台となる。そして自律するから、自立できるのである。

2 愛着は母港、成長したら出港させる

愛着は、言わば「母港」である。母港は必要だが、船はいつまでも母港にいてはいけない。出港しなければならない。愛着は必要だが、子供が成長したら出港させる(旅立たせる)ことが必要である。

3 型を継承する

ある保育所で、立腰教育をしている。

姿勢を意識させることで、子供の芯がしっかりしてくる。個性の前に、まずは、日本人が伝統的に継承してきた「型」を教えることが大切である。

■ 親学の誤解

親学は子供の発達を保障することであって、価値観の強制ではない。子供の発達段階に応じた関わり方がある。そのことは、日本小児科学会をはじめとし、科学的にも証明されている。

■ 日本の伝統的な子育てを見直す

江戸時代、「日本の子供は、世界一礼儀正しい。」と言われた。親が子供に背中(態度)で見せていたからである。

現在、親に親心が育っていないことが問題の一つにある。親育ちを支援するのが親学である。

「三つ子の魂百まで」というが、江戸時代には、三つで心、六つで躰、九つで言葉、十二で文章、十五で道理を教えれば子供は自立できると言っている。

親学の使命として、伝統的な子育てを今一度見直し、広げていくことがある。

■ 親学推進協会会長 上野淳次



親学は、子供を健全に育てていこうという考え方のもとに作られました。

一番最初の学校は家庭で、最初の先生は親です。親学は、人が成長、育成するために重要な体系です。法律を守るためにも、子供たちを立派に育成するご協力をお願いします。

■ 広島県議会議員挨拶 緒方直之様



TOSSの皆さんや、青年会議所の後輩にも力を貸してもらい、本当にありがとうございます。

会を開くことが目的ではなく、皆様と一緒に学ばせていただきながら、それを明日どう行動に変えていくかです。今日が第一歩です。皆様とともに歩みます。

■ 来賓のご紹介



広島県議会議員
上田 泰弘 様



広島県議会議員
畑石 顕司 様



安芸太田町議会議員
津田 宏 様

■ 祝詞をいただきました。(衆議院議員 岸田文雄 様)

第1回親学講演会が盛大に開催されますことを心より歓迎申し上げます。
教育は子を教え・育てることにとどまらず、親も学び成長する大切な時間であると感じています。
「親学」をとおして親子の実りある人生と、絆が深まりますことを期待いたします。
本講演会開催にご尽力された関係各位に深く感謝を申し上げますとともに、広島県親学推進協会の今後ますますのご発展と、皆様のご健勝ならびにご多幸を祈念いたします。



■ 参加者の感想

親学の重要性を学ぶことができた。現代社会で、家庭に欠落しているものに気付くことができた。より多くの方に親学について知ってもらい、家庭教育の推進に繋がってほしいと思います。
(20代男性, 公務員)

親の心のコップを上に向けること。親自身が育つことの大切さを素直に感じることができました。親の心が、家庭でも職場でも、あらゆるところで、平和と幸福を創る基だと思えます。
(60代女性, 看護師)

「親が壁になる」「ならぬものはならぬ」ブレない大人の強さが、今、足りないのではないかと感じています。今日のような講演会で、大人が心を磨き「ブレない芯」をつくっていくことを心したいです。
(20代男性, 公務員)

高橋先生の話は、とっても勉強になりました。「愛着形成」がいかに大切なのかが分かりました。科学的知見をもとに、情報提供をしていく必要があると感じました。
(40代男性, 公務員)

子育て、家庭問題に悩んでいる人達のネットワーク作り、地域の受け皿作りの必要性。又、素読教室等の実践的学びの場作りの必要性。この協会のネットワークを拡大するために努力したい。
(50代男性, 会社員)

今日、来られて本当に幸運でした。とても素晴らしい具体的な内容で大変参考になります。高橋先生が、現場で動かれている生の声が聞けました。
(50代女性, 主婦)

■ 第1回 親守詩広島県大会の御案内

11月6日(日)に、第1回 親守詩広島県大会を開催します。「親守詩(おやもりうた)」は、高橋史朗氏が提唱された、「子が親を想って作る詩」のことです。子どもが五・七・五、親が七・七で、「感謝」と「親心」を表現する親子の”キャッチボール短歌”です。親子の絆の大切さが見直される中、学校、家庭、地域が協力・連携する新たな動きとして全国に広がっています。

【作品例】

子 ごめんなさい あやまりたいよ 本当は
親 ケンカしてても わかっているよ

子 お父さん いつもお仕事 たいへんだ
親 たいへんなのは 土日のほうだ!!

子 おとうさん かたぐるまして ありがとう
親 いつかとうちゃん おぶってくれよ



写真は岡山県大会の様子です。

親守詩募集中!!

平成28年度作品を募集中。
期間は、9月30日まで。
詳細は、ホームページにて。

広島 親守詩募集

検索

